

巻頭言

研究成果の利用状況とホームページ

企画調整部長 石塚 和裕



近年のインターネット環境の変化にはめざましいものがあります。電話回線を利用したフォトカップラーの時代もありましたが、いつの間にかモデム、ISDN、ADSL、さらに光ケーブルによる常時接続を可能にしたブロードバンド時代に急速に変化しています。

それとともに、独立行政法人を含む行政機関の情報公開が同時並行的に進み、今や国会での審議がインターネット映像で配信され、各省庁がホームページを利用して公開している情報は膨大となり、各種審議会の議事録や重要な決定事項がプレスリリースとともに全て知りうる状況になってきました。我々が訪れる林野庁でも、担当官がさまざまな情報を検索するのも、担当者間で連絡を取るのも、報告書や電話からインターネットに変わってしまっています。

ところで、森林総合研究所は研究成果の情報発信について国民にどのように利用されているか、利用状況をフォローアップするためのアンケート調査を平成12年7月に本・支所で行いました。調査は、研究報告、年報、研究成果選集、所報や研究の森などの機関誌を送付している行政、研究機関、大学、林業関係団体等を対象に1,660枚のアンケート用紙を発送し、回収率は68%でした。その結果、研究所の定期・不定期刊行物の認知度は約70%と高く、利用状況についてもほぼ満足する結果でしたが、ホームページをほとんど読んだことがない者が68%で、とりわけ林野庁や都道府県行政ではそれぞれ78、74%と高く、活用度も43、50%にとどまっていました。このアンケートの発送の根拠が刊行物であることと、パソコンやインターネット通信の普及度が低かったことを考慮に入れても、ホームページの利用が森林・林業分野で進んでいないことが明らかになりました。ただし、大学などの研究者を中心とした利用者の活用度は83%で、今後とも内容の充実を図るべきであると判断されました。

これらの期間における本所ホームページへのアクセス（したホストの）件数は、平成11年度が91千件（支所計83千件）、平成14年度が258千件（支所367千件）であったことをみますと、ホームページに対する利用と期待度は今や全く変わってきていると思われます。森林総合研究所のホームページも平成15年3月末に一新し、新着・更新情報、研究所早わかり等の紹介コーナーやサイトマップも加えました（9月には検索機能を付加するなど再改訂を計画中）。そのおかげで、改訂以降の4か月間に113千件ものアクセス件数がありました。このような状況ですから、今年度再びアンケート調査を行って情報発信に対する利用状況をフォローアップし、今後の改善に役立てたいと考えています。その際には皆様のご協力をお願いいたします。

[\[巻頭言\]](#) [\[解説シリーズ\]](#) [\[報告\]](#) [\[おしらせ\]](#)

[\[所報トップページへ\]](#)